

第5回加賀ふるさと検定【上級問題の正解及び解説編】

- 1 近年、加賀市では、伝統的な祭りだけでなく、観光化された祭りも盛んになっている。そのような中で、最も新しい祭りは（ ）である。
- ①大聖寺桜祭り ②片山津湯の祭り ③山中こいこい祭り ④山代大田楽

正解は④です。【正解率77.3%】 学習帳Ⅱ（民俗編）28頁

加賀市は多核都市で、各町にはそれぞれ特徴ある伝統的な祭りがあります。また、近年、そうした伝統的な祭りでも観光化され、少しずつ変貌してきているものもあります。そうした中、平成7年から、山代温泉服部神社前を会場に行われているのが、従来祭りとは異なる、狂言師・野村万之丞（故人）が創作した創作舞踊「山代大田楽」です。

- 2 加賀市域で盛んに作られる伝統料理の一つに（ ）があるが、各家庭によって、作り方や味も個性的である。
- ①笹寿司 ②柿の葉寿司 ③巻き寿司 ④押し寿司

正解は②です。【正解率100.0%】 学習帳Ⅱ（民俗編）33頁

柿の葉寿司は奈良や和歌山にもありますが、これらの地域ではすし飯を柿の葉で包み込みます。一方、当地の柿の葉寿司は、柿の葉を広げたままで、その上にすし飯を乗せ、押しをして食べます。具材はシメサバやシャケ、ブリなどをのせるのが一般的ですが、各家庭によって独特のぐの取り合わせや並べ方があり、味もその家庭の味となっています。

- 3 加賀市の片野から黒崎、橋立にかけての橋立台地には海岸地形特有の（ ）が見られる。
- ①砂丘 ②海蝕崖 ③活断層 ④防風林

正解は②です。【正解率77.3%】 学習帳Ⅱ（民俗編）28頁

加賀市の海岸は、砂丘の部分と絶壁断崖の部分とで日本海に接しています。砂丘部分はかつての入り江の部分と考えられ、橋立丘陵部分は、岩盤で海底が隆起したのと考えられ、長い年月の間に波の浸食を受けてできた地形と考えられます。海岸段丘・海蝕洞などが多く見られます。

- 4 加賀市の二大河川である大聖寺川の長さは、（ ） kmである。
- ① 18.0 ② 28.0 ③ 38.0 ④ 48.0

正解は③です。【正解率90.9%】 学習帳Ⅱ（自然編）8頁

加賀市の二大河川とは大聖寺川と動橋川です。大聖寺川は全長38 kmで、県内では手取川、梯川に次ぐ3番目の長さとなっています。特に大聖寺市街地での蛇行が激しく、古来よりたびたび氾濫を起こしてきた歴史をもっています。一方、動橋川は20.4 kmと、大聖寺川のほぼ半分の長さで、大聖寺川と同様、大日山を源流としています。

- 5 江沼三山の一つ（ ）は、加賀市内はもちろんのこと、海上からも目立ち、船の航行の目印とされ、別名舟見山ともいわれている。
- ①白山 ②富士写ヶ岳 ③鞍掛山 ④刈安山

正解は③です。【正解率90.9%】 学習帳Ⅱ（自然編）9頁

加賀市で最も高い山、大日山、富士山のような姿をしている富士写ヶ岳、2つのコブがあり、馬の鞍の形に似ている鞍掛山、これら3つの山は「江沼三山」と呼ばれ、古来から当地の人々に親しまれてきました。鞍掛山は、独特な形をしているために海上を航行する船の目印にもなっており、舟見山の別名を持っています。

- 6 加賀市では、国蝶として珍重される（ ）が平成10年頃前までは確認されていたが、それ以降は確認されていない。
- ①ギフチョウ ②アオムラサキ ③フジミドリシジミ ④オオムラサキ

正解は④です。【正解率90.9%】 学習帳Ⅱ（自然編）13頁

加賀市では、ギフチョウやムカシトンボ、ムカシヤンマ、フジミドリシジミなどの珍しいチョウやトンボを見ることができます。なお、国蝶であるオオムラサキは、平成10年頃までは見ることができましたが、それ以降は確認されていません。

- 7 かつては農業や炭焼きで生計を立てていた（ ）・今立・荒谷・杉水の東谷地区4町に、昭和30年頃まではおよそ800人の人々が暮らしていた。
- ①真砂 ②四十九院 ③大土 ④片谷

正解は③です。【正解率86.4%】 学習帳Ⅱ（自然編）11頁

加賀市の山間部でも高度経済成長の前までは、炭焼きや焼き畑の風習が見られ、一定の人口を保っていました。ところが、近年、山の暮らしも変貌し、若い人たちの多くは平野部に出て、村は廃村になったり、人口が激減しました。平成26年4月現在の東谷4集落の人口の合計数は50人を下回っている状況です。

- 8 毎年5月頃、富士写ヶ岳の中腹から山頂にかけての登山道わきには、（ ）がきれいに咲き誇る。
- ①山桜 ②シャクナゲ ③ササユリ ④かたくり

正解は②です。【正解率81.8%】 学習帳Ⅱ（自然編）9頁

大日山から手前10kmほど離れたところに富士山の山容に似た山があります。標高942mの富士写ヶ岳です。毎年5月初旬、中腹から山頂にかけてシャクナゲの花を見ることができます。毎年、この時期、富士写ヶ岳では、このシャクナゲの花を見るために、多くの登山客で賑わいます。

- 9 縄文時代早期の（ ）からは、せんていだえんおしがたもん尖底楕円押型文土器と呼ばれる県内最古の土器が出土している。
- ①保賀遺跡 ②橋立大野山遺跡 ③打越遺跡 ④美岬千崎遺跡

正解は②です。【正解率100.0%】 学習帳 I (歴史編) 9頁

縄文時代早期の生活は、旧石器時代同様にあまり明らかにされておらず、市内でも橋立大野山・伊切・美岬千崎海岸・柴山水底貝塚等の遺跡があるにすぎません。そのうち大野山遺跡から発見された1個の楕円押型文は、近畿地方の影響が強い縄文早期の資料として貴重です。

- 10 弥生時代前期末の柴山出村遺跡からは県内最古の弥生土器が発見されているが、この土器は柴山出村式土器と呼ばれ、()の影響を強く受けていることが判明した。①中国地方 ②関東地方 ③東北地方 ④東海地方

正解は③です。【正解率54.5%】 学習帳 I (歴史編) 10頁

柴山出村遺跡から出土した柴山出村式土器には粗製品と精製品の2種類があり、粗製品は東海地方との関連が強いとされていますが、精製品は岩手県大船渡市の大洞A式に類似しており、弥生式土器というものの東日本縄文晩期の遺風を強く残してものです。

- 11 分校松山古墳群における分校前山支群1号墳からは、大和朝廷が江沼の王に与えたものと考えられる()と称する当地方で最も古い銅鏡が発見された。①三角縁神獣鏡 ②鋸歯文縁方格規矩四神鏡 ③画文帯神獣鏡 ④内行花文鏡

正解は②です。【正解率86.4%】 学習帳 I (歴史編) 11頁

分校前山1号墳は5世紀前半の全長35mの前方後円墳。出土した鏡は中国後漢時代の舶載鏡で、これまでは狐山古墳の画文帯神獣鏡が最も古いとされてきましたが、それより古くなり、鏡が権威の象徴として授けられたとすれば、狐山古墳以前に大和朝廷の影響が浸透していたことを示しています。

- 12 5世紀中頃の前方後円墳である狐山古墳の石棺からは、全国に4例しか確認されていない()と称する小さな鉄板をつづり合わせた^{かっちゅう}甲冑が発見されている。①組合木甲 ②桂甲 ③短甲 ④鉄短冊

正解は②です。【正解率68.2%】 学習帳 I (歴史編) 12頁

狐山古墳の副葬品は神獣鏡・銀製装飾品・玉類と甲冑・刀剣等の豊富な鉄製品を有しており、畿内と強い結びつきがうかがえ、当地域の統治に成功した江沼臣の一族に関係する古墳ではないかと考えられます。

- 13 6世紀、朝鮮半島から仏教が伝来すると、江沼地域でも寺院が建立されるようになり、現在までに、宮地、弓波、津波倉、保賀、()の5カ所から寺院跡の遺構や出土物が発見されている。①小塩辻 ②箱宮 ③高尾 ④伊切

正解は③です。【正解率54.5%】 学習帳 I (歴史編) 14頁

6世紀、朝鮮半島から仏教が伝来すると、江沼地域でも寺院が建立されるようになり、有力豪族たちがこれまでの古墳に代わり、氏寺を建立するようになったと考えられています。現在、宮地、弓波、津波倉、保賀、高尾の5カ所から瓦や土台など寺院跡と思われる遺構や出土物が発見されています。

- 14 律令体制下における江沼郡域を代表する豪族は江沼氏であったが、平安時代後期、新たに台頭してきたのは、土着した国司の末裔である（ ）であった。
 ①藤原氏 ②大江氏 ③疋田氏 ④長野氏

正解は②です。【正解率81.8%】 学習帳 I (歴史編) 15頁

「医心坊巻 25 裏文書」の大治 2 年 (1127) 8 月付の江沼郡の郡司や郷司が国守の直接の裁許を求めた加賀國江沼郡諸司等解に名を連ねたのは、前加賀掾大江氏・菅浪郷司大江氏・山代郷司大江氏・南郷司大江氏・諸田郷司藤原氏であり、「惣郡司職」と称して、かつての江沼郡の郡領の権限を分割しながら、郡の管理者となっていたのは大江氏でした。

- 15 建武 3 年、反足利尊氏派の新田義貞は畑時能や狩野一党を味方にして、「大聖寺ノ城」に盾籠^{たてこ}もる尊氏方の（ ）を攻め落とした。
 ①津葉清文 ②斯波高経 ③富樫高家 ④吉見頼隆

正解は①です。【正解率50.0%】 学習帳 I (歴史編) 20頁

『太平記』によれば、建武 3 年、新田義貞が越前に入ると、義貞の被官畑時能に同調した狩野一党が越前の細呂木に堡壘を構えて、「大聖寺ノ城」の津葉五郎清文を攻め落とし、さらに越前守護の斯波高経の拠点越前府中を攻めたとされています。

- 16 15 世紀以降、京都の公家の中には、荘園の權益を守るために下国し直接経営に当たる者もでた。額田荘・八田荘では（ ）父子が 3 代にわたり荘園を直接支配した。①園基富 ②中院通世 ③高辻継長 ④徳大寺実定

正解は②です。【正解率18.2%】 学習帳 I (歴史編) 21頁

額田荘は、「承久の乱」までは院領でしたが、実質的な支配権は領家一預所の手中にありました。荘務は院の有力近臣高階一門が知行し、その所縁で藤原範子・兼子姉妹を経て、源(中院)通方に譲られ、中世全般を通して中院家領となりました。

- 17 鎌倉仏教のうち、最初に江沼の地に進出したのは時宗であった。『時衆過去帳』によれば、江沼郡では（ ）の西光寺を中心に、海岸寄り一帯に道場が置かれた。①塩屋 ②潮津 ③橋立 ④小塩

正解は②です。【正解率86.4%】 学習帳 I (歴史編) 22頁

時宗では 2 世真教が道場開創を認めたため、全国に 100 ヶ所余りの道場が開かれ、それらの道場に住し、往生した時衆は、その道場の所在地の名と共に『時衆過去帳』に記載されています。それにより江沼郡では柴山・林・額田・潮津・大聖寺・八田に道場が置かれ、特に潮津の西光寺が中心となっていました。

- 18 15 世紀中頃、本願寺 7 世存如は蓮如を伴って加賀に入り、高田派に対抗し布教活動を開始した。存如が（ ）に下した『親鸞聖人絵伝』はそれを示す歴史資料である。①月津興宗寺 ②河崎専称寺 ③打越勝光寺 ④新郷専光寺

正解は②です。【正解率77.3%】 学習帳Ⅰ（歴史編）22頁

山田光教寺2世顕誓が永禄12年(1569)に著した『反古裏書』によれば、藤島超勝寺が開創した応永14年(1407)頃、加賀の本願寺派寺院は荻生願成寺・河崎専称寺・長崎称名寺・宮越仰西寺の4ヶ寺しかありませんでした。当時は高田派およびその系統の三門徒派が隆盛で、本願寺派は圧倒的に少数派であったことがわかります。そのような中で、本願寺派は7世存如が蓮如を伴って布教活動を開始し勢力を拡大したのです。

- 19 享禄4年、山田光教寺の顕誓は、有力国人であった（ ）・福田ノ竹太夫^{たけだゆう}・柴山^{ひとつはり}・一針や越前朝倉氏の援軍を得て超勝寺一党と戦ったが敗れ、越前に亡命した。①黒瀬覚道 ②振橋帯刀 ③藤丸新介 ④鴻山津大助

正解は①です。【正解率72.7%】 学習帳Ⅰ（歴史編）25頁

本願寺10世証如の時代になると、門徒は直接本願寺の直参門徒になる志望を強めていきました。そうした門徒の動向を察した本願寺は、越前帰還を望み三ヶ寺と対抗関係にあった超勝寺との連携を深め、反三ヶ寺体制の姿勢を示すようになりました。これに対し三ヶ寺派は実力行動で超勝寺を討つことを決意しましたが、超勝寺一党が攻撃に出て松岡寺を滅ぼし、本泉寺を焼き払い、江沼郡にも攻め込みました。この「享禄の錯乱」により、「加州三ヶ寺体制」は消滅し、名実ともに本願寺直参を中心とする本願寺王国が出現したのです。

- 20 江沼郡出身の天台宗の僧延昌は幼い頃に出家し、比叡山で仏教を学び、のち天台座主にまで上り詰めた。その事績をもとに謡曲（ ）や「ゆみつぎ」が創作された。①高野物狂 ②隅田川 ③敷地物狂 ④三井寺

正解は③です。【正解率90.9%】 学習帳Ⅲ（人物編）27頁

天台座主延昌の伝承は、天台宗延暦寺を中心に様々な僧伝が脚色されてきましたが、室町中期の『三国伝記』に至ってほぼ完成をみました。それに書かれた話を基に金春禅竹が「敷地物狂」を創作したと思われます。

- 21 江沼郡赤尾を拠点とする一向一揆の大將藤丸新介は、天文24年朝倉宗滴が江沼郡に侵入した時、南郷城で迎え撃ったが敗退。その後、（ ）の戦いで自刃したという。①金沢御堂 ②松任城 ③砺波城 ④魚津城

正解は④です。【正解率81.8%】 学習帳Ⅲ（人物編）44頁

藤丸新介は、江沼郡赤尾を拠点とする一向一揆の大將で、天文24年(1555)朝倉宗滴が江沼郡に侵攻した時、南郷城に黒瀬掃部丞戸とともに迎え撃ちましたが敗退。その後、赤尾を捨てて横北に逃れたと伝えられています。天正5年(1577)越後の上杉景勝に仕え、魚津城の守備につきましたが、同10年柴田勝家に攻められて自刃したとされています。

- 22 大聖寺藩士後藤才次郎は、伝承では、万治2年藩命で製陶法を習いに肥前有田に赴き、（ ）で出会った明の陶工数名を伴って帰藩し古九谷窯を開いたとされる。①伊万里 ②平戸 ③長崎 ④佐賀

正解は③です。【正解率31.8%】 学習帳Ⅲ（人物編）33頁

後藤才次郎については吉定・定次・忠清の3人があり、古九谷に関係した才次郎が誰であったかは不明です。

伝承では、才次郎は、万治2年（1695）藩命で製陶法を習いに、肥前有田（佐賀県）に赴き、長崎で出会った明からの亡命した陶工を数名連れ帰って、古九谷窯を開いたと云われていますが、確たる根拠はありません。

- 23 大聖寺藩士小塚藤十郎は、文政8年に松奉行となり、藩領内の海岸線にクロマツを植え、加賀海岸の松林の基礎を築いた。また、領内の地誌（ ）の編纂にも力を注いだ。①「加賀江沼郡雑記」 ②「藩国見聞録」 ③「芟憩紀聞」 ④「加賀江沼志稿」

正解は④です。【正解率72.7%】 学習帳Ⅲ（人物編）32頁

小塚藤十郎は、文政7年藩から植物方を命ぜられ、上木村外五ヶ村に松・杉・槻・漆・桑・茶等を植えました。翌8年には、松奉行となって、今日の加賀海岸の松林の基礎を築いたことはよく知られていますが、天保15年（1844）に領内の総合地誌『加賀江沼志稿』32巻を完成させたことも藤十郎の大きな功績といえます。

- 24 山口玄蕃宗永は慶長3年に越前北庄城主となった小早川秀秋の家老として赴任し大聖寺城主となった。宗永は（ ）の出身で、理財の道に優れた人物であったという。 ①筑前国 ②山城国 ③若狭国 ④筑後国

正解は②です。【正解率95.5%】 学習帳Ⅰ（歴史編）30頁

筑前・筑後（福岡県）の領主であった小早川秀秋は、慶長3年（1598）4月に豊臣秀吉の命により越前北庄に移され、江沼郡も領しました。このとき、秀秋の筆頭家老であった山口玄蕃宗永は、秀吉の直臣に転じて大聖寺城主となり、江沼郡7万石を支配しました。宗永は山城国（京都府）の出身で、筑前・筑後の検地を実施するなど、理財の道に優れた人物でした。

- 25 金沢城主前田利長は、慶長5年から40年近く、大聖寺城代を置き江沼郡を支配した。その初代城代（ ）は、利長の命により金沢城で斬殺された。 ①太田長知 ②小塚権太夫 ③津田重久 ④横山長知

正解は①です。【正解率68.2%】 学習帳Ⅰ（歴史編）31頁

金沢城主前田利長は、慶長5年（1600）8月の大聖寺合戦後から寛永16年（1639）6月の大聖寺藩の成立まで、大聖寺城代（のち郡奉行）を置き江沼郡を支配しました。大聖寺城代は、元和2年（1616）まで太田長知・小塚権太夫・横山長知・近藤長広・津田重久などが派遣されました。初代城代の太田長知は、慶長7年（1602）5月に利長の命で横山長知によって金沢城で斬殺されました。

- 26 万治3年4月、大聖寺藩祖前田利治が死去したことで、中沢久兵衛、小沢三郎兵衛、小栗権三郎の3人が殉死した。このうち中沢は5月3日（ ）で自害した。 ①宗英寺 ②久法寺 ③全昌寺 ④寛慶寺

正解は③です。【正解率68.2%】 学習帳Ⅰ（歴史編）33頁

大聖寺藩祖前田利治は、万治3年（1660）4月21日に江戸で死去しました。このとき、中沢久兵衛（35歳）、小沢三郎兵衛（49歳）、小栗権三郎（22歳）の3人が殉死（追腹）しました。小沢は4月27日に信州（長野県）善光寺に隣接する寛慶寺で、中沢は5月3日に全昌寺で、小栗は5月2日に久法寺でそれぞれ自害しました。彼らの墓は、いまでも実性院にある利治の墓の後方に立てられています。

- 27 大聖寺新田藩祖前田利昌は、宝永6年2月に上野寛永寺で行われた5代将軍徳川綱吉の法会において、御馳走役を務めた（ ）の織田秀親（監物）を殺害した。
①柳本藩主 ②蒲生藩主 ③郡山藩主 ④柳生藩主

正解は①です。【正解率86.4%】 学習帳Ⅰ（歴史編）38頁

大聖寺新田藩祖前田利昌（3代利直の弟）は、宝永6年（1709）2月に上野寛永寺で行われた5代将軍徳川綱吉の法会において、他藩の4人とともに朝廷の使者をもてなす御馳走役を命じられました。ところが、利昌はこの法会が行われた2月16日に乱心し、同寺の顕性院で大和柳本藩主の織田秀親（監物）を殺害しました。そのため、利昌は同月18日に切腹となり、大聖寺新田藩も廃藩となりました。

- 28 大聖寺藩2代前田利明は、延宝4年、中田村五郎兵衛と足軽の栗村茂右衛門を（ ）二俣村に派遣し、御料紙や日常紙の製法を習得させた。
①能美郡 ②石川郡 ③河北郡 ④羽咋郡

正解は③です。【正解率40.9%】 学習帳Ⅰ（歴史編）44頁

大聖寺藩主2代前田利明は、延宝4年（1676）に中田村五郎兵衛と足軽の栗村茂右衛門を河北郡二俣村に派遣し、御料紙や日常紙の製法を習得させました。日常紙は、「紙屋谷」と呼ばれた中田・長谷田・上原・塚谷など4か村（土谷村を加え5か村）で製造されましたが、御前延紙・銭手形など御料紙は中田村の角屋家と大茂谷家で製造されました。

- 29 正徳2年8月、強風被害に伴い大聖寺藩領内で正徳一揆が起こった。このとき、農民たちは作柄の検分を行っていた役人らを（ ）で襲撃し、年貢の軽減を認めさせた。 ①分校村 ②山代村 ③那谷村 ④山中村

正解は③です。【正解率22.7%】 学習帳Ⅰ（歴史編）38頁

大聖寺藩主4代前田利章の治世、正徳2年（1712）8月には強風被害に伴い、領内全域にわたる正徳一揆が起こりました。このとき、農民たちは作柄の検分を行っていた役人らを那谷村で襲撃し、年貢の軽減を認めさせました。このあと、農民たちは串茶屋・庄・山代・山中などの問屋や十村宅を襲い、打ちこわしを行いました。農民たちは自村の焼打ちを恐れて、仕方なく一揆に参加しました。

- 30 江戸時代、大聖寺藩の村々には、村肝煎・組合頭・（ ）からなる村方三役（地方三役）が置かれていた。
①算者 ②十人頭 ③五人頭 ④百姓代

正解は④です。【正解率40.9%】 学習帳Ⅰ（歴史編）36頁

大聖寺藩の村々にも、村肝煎・組合頭・百姓代から成る村方三役（地方三役）が置かれていました。村肝煎は頭振（水呑百姓）を除く村人から入札（選挙）で選ばれ、一定の役料が支給された。その業務は各村の租税収納、治安維持、村民扶助、他村との交渉など多岐に亘っていました。組合頭は村肝煎の補佐役で、村万雑（雑費）から若干の役料が支給されました。百姓代は臨時の連名者で、役所への報告に形式的に名前を連ねました。

- 31 大聖寺藩の参勤交代は、藩主が江戸に行く参勤（参観）と国元に帰る交代（就封）がある。これらを合わせると計（ ）行われたことになる。
①179回 ②181回 ③183回 ④185回

正解は②です。【正解率72.7%】 学習帳 I (歴史編) 36頁

大聖寺藩主の参勤交代には、金沢方面へ向かう中山道経由の下街道(131里)と福井方面へ向かう中山道経由の上街道(148里)、東海道経由の上街道(139里)の3コースがありました。下街道は距離が短いこと、全行程のうち加賀藩領が4分の1を占めていたことから最も多く利用されました。大聖寺藩主は下街道を利用したとき、金沢城下の旅籠に宿泊して、金沢城へ出向き重臣に挨拶するとともに宝円寺や天徳院を参詣しました。

- 32 大聖寺藩では城下町の西端に関所を、橘・吉崎・熊坂・()などに口留番所を置き、越前との往来を常に監視した。
- ①山中 ②風谷 ③九谷 ④真砂

正解は②です。【正解率81.8%】 学習帳 I (歴史編) 37頁

大聖寺では城下町の西端に関所を、橘・吉崎・熊坂・風谷・大内などに口留番所を置き、越前との往来を常に監視しました。大聖寺の関所は日の出とともに門扉を開き、日没とともにそれを閉じ、夜間の通行は禁止されていました。足軽数人が当番と非番に分かれ、昼夜ともに門番に当たっていました。なお、関所の柵門は明治2年(1869)に宗寿寺の境内に移され山門となりました。

- 33 柴山潟にも大聖寺川と同様に川舟が往来し、その周辺には河道が置かれていた。遊行上人一行は、()領にあった上人河道を利用して実盛塚を回向した。
- ①柴山村 ②新保村 ③伊切村 ④篠原村

正解は③です。【正解率59.1%】 学習帳 I (歴史編) 37頁

遊行上人一行100人余は、前年の10月下旬に金沢玉泉寺に入り、そこで翌年2月まで約100日間逗留したのち、金沢を出立して小松で宿泊しました。翌日午前中には、小松の多太八幡宮を参詣し、午後には篠原の実盛塚に移動して弥陀経の念仏を唱えました。このとき、一行は今江村から数艘の舟に乗り、大聖寺藩士が待つ伊切村領の上人河道で舟を降りました。

- 34 大聖寺藩主12代前田利義は軍備の必要性を痛感し、嘉永5年に藩士の西出源蔵を金沢に遣わし、吹屋の()に大砲の鑄造を命じた。
- ①村山四郎兵衛 ②吉崎屋嘉兵衛 ③西出孫左衛門 ④久保彦兵衛

正解は①です。【正解率45.5%】 学習帳 I (歴史編) 39頁

大聖寺藩主12代前田利義は、嘉永5年(1852)に西出源蔵を金沢野町に遣わし、吹屋の村山四郎兵衛に大砲の鑄造を命じました。大砲は資金不足のため21挺中3挺しか完成せず、残りの18挺は北前船主の久保彦兵衛をはじめ、西出孫左衛門・増田又右衛門・酒谷長平・屋西野小左衛門などの献金によって鑄造されました。

- 35 大聖寺藩では、佐々木泉景をはじめ小原文英や山口梅園など多くの絵師が活躍したが、このうち、小原文英は初め狩野派を学んだが、のち谷文晁から()を修得した。
- ①南画 ②写生画 ③文人画 ④洋画

正解は③です。【正解率45.5%】 学習帳 I (歴史編) 47頁

大聖寺藩の絵師では、加賀藩の御用絵師を務めた佐々木泉景をはじめ、小原文英・山口梅園・東方蒙斎・小島

春晁などが活躍しました。佐々木泉景は享和元年（1801）に禁裏御用を務め、翌年に法橋位に叙せられ、文化4年（1807）から加賀藩御用を務めました。小原文英は初め狩野派、のち谷文晁から文人画を修得しました。山口梅園は小原文英に南画を学び、のち京都の浦上春琴や山本梅逸に師事しました。

- 36 明治3年、大聖寺庄兵衛谷に浦上キリシタン 50 人が収容されたが、明治5年に金沢の（ ）に送られた。
①金沢東別院 ②卯辰山 ③尾山神社 ④大乘寺

正解は②です。【正解率81.8%】 学習帳 I（歴史編）51頁

大聖寺藩は、キリシタンたちに改宗を迫り藩内の各真宗寺院で説論を行ないました。結局、改心した者は18人であったと記録されています。この浦上キリシタンたちは、同5年7月に金沢に送られました。金沢では数か所の収容施設が用意されていましたが、大聖寺藩預かりのキリシタンたちは卯辰山の養生所跡に収容されたといえます。

- 37 明治2年、大聖寺藩士石川嶂は、琵琶湖に川蒸気船一番丸を就航させた。一番丸は、大津と（ ）を往復する日本初の川蒸気船となった。
①彦根 ②長浜 ③海津 ④今津

正解は③です。【正解率45.5%】 学習帳 I（歴史編）51頁

琵琶湖北部に位置する海津（現高島市マキノ町海津）は古来より湖上交通の要衝として栄えた港町です。明治2年3月に、石川嶂が琵琶湖にはじめて就航させた川蒸気船「一番丸」は、大津と海津間 64 kmを往復しました。同年10月には「二番丸」を就航させています。

- 38 明治8年、富士写ヶ岳山麓で良質の黒鉛が発見された。元大聖寺藩士で当時（ ）の役人をしていた飛鳥井清はこの黒鉛を利用し鉛筆製造をしようと考えた。
①石川県庁 ②大蔵省 ③文部省 ④工部省

正解は②です。【正解率68.2%】 学習帳 I（歴史編）52頁

元大聖寺藩士であった飛鳥井清が、江沼郡内で発見された黒鉛を利用し、鉛筆製造を思い立った背景には、当時、大蔵省の役人をしていたことで、この頃、オーストリアのウィーン万国博覧会（明治6年開催）で鉛筆製造の方法を学んできた井口直樹との接触や示唆があったものと考えられます。

- 39 大聖寺の貿易商大沢十次郎は、明治9年、九谷焼などを出品するためにアメリカに渡り、2年後、ニューヨークや（ ）に支店を設置し販路を拡大させた。
①ロンドン ②香港 ③シカゴ ④ボストン

正解は③です。【正解率54.5%】 学習帳 I（歴史編）53頁

明治9年（1876）大聖寺の貿易商大沢十次郎は、フィラデルフィア万国博覧会に江沼郡の九谷焼や製茶を出品するためにアメリカに渡りました。帰国後は横浜に店舗を開き、九谷焼や漆器、製茶などの郷土の物産を販売しました。また、明治11年にはシカゴとニューヨークの2カ所に支店を設けてさらに販路を拡張しました。

- 40 「大聖寺博覧会」は、明治12年に（ ）と遷明中学校の2カ所を会場にして、15日間にわたって盛大に開催された。
- ①江沼神社 ②錦城小学校 ③願成寺 ④江沼物産館

正解は②です。【正解率 95.5%】 学習帳 I (歴史編) 54 頁

明治12年(1879)の4月から5月にかけて開催された「大聖寺博覧会」の会場は、大聖寺の錦城小学校と遷明中学校の2ヶ所が使われました。遷明中学校は、明治11年6月に大聖寺八間道に設置された中学校ですが、同19年に廃校となりました。

- 41 昭和2年、当地で創業された八十四銀行は、世界恐慌や織物業の不振などで休業に追い込まれ、翌3年、いくつかの休業銀行を整理統合し（ ）銀行として再編された。①明治 ②大正 ③昭和 ④再生

正解は③です。【正解率 59.1%】 学習帳 I (歴史編) 56 頁

昭和の恐慌により、八十四銀行を含めて、いくつかの地方銀行が休業追い込まれましたが、政府は日銀指導のもとで破綻した銀行の債権債務を引き取るために「昭和銀行」をつくり対処しました。昭和銀行は昭和19年(1994)、その任務を終え、安田銀行(後の富士銀行)に吸収合併する形で廃止されました。

- 42 県立大聖寺中学校が設立されたのは大正12年のことであったが、当地初の女学校となる郡立実家高等女学校が設立されたのは、（ ）のことであった。
- ①明治44年 ②大正13年 ③昭和6年 ④昭和11年

正解は①です。【正解率 90.9%】 学習帳 I (歴史編) 59 頁

大正12年(1923)に県立大聖寺中学校が設立されましたが、女学校はこれよりも10年余り早い明治44年に、郡立実科高等女学校(のち県立大聖寺高等女学校)として設立されました。開校当時は江沼郡役所隣の江沼公会堂を仮校舎として授業がおこなわれましたが、大正元年には大聖寺耳聞山の旧藩主前田子爵別邸の一部を敷地として譲り受け、新校舎としました。

- 43 加賀市（ ）町では、地租改正後の明治19年と農地改革後の昭和26年の2回、田地の水害に見舞われたことで、地割(田地割)が行われた。
- ①中島 ②柴山 ③潮津 ④合河

正解は②です。【正解率 59.1%】 学習帳 I (歴史編) 62 頁

農民の耕作地を一定年限ごとに交換するもので、農民の年貢負担を均等化する役割を果たしました。柴山では地租改正後の明治19年と農地改革後の昭和26年の2回、柴山瀧の排水が土砂で閉塞され田地が水害に見舞われたために地割(田地割)が実施されています。

- 44 大聖寺川の河口に位置する鹿島の森には、平安時代に天台宗の霊場が、また江戸時代には万宝院と称する（ ）の道場があった。
- ①法華宗 ②浄土宗 ③臨済宗 ④曹洞宗

正解は①です。【正解率 45.5%】 学習帳 II (指定文化財編) 42 頁

大聖寺川の河口、塩屋町には陸続きの鹿島の森(標高約30m、外周約600m)があります。この小島には平安時

代に天台宗の霊場が、また江戸時代には万宝院と称する法華宗の道場があったため、数百年来、伐採を禁止してきた。そのため、タブ・スダジイ・ヤブニッケイなど常緑広葉樹林が生い茂り、樹下にはカラタチバナ・ベニシダ・ムラサキシキブなどが自生する原生林が残されています。

45 大聖寺神明町の全昌寺には、京都の仏工（ ）が幕末から明治にかけて製作した五百羅漢像が一体も欠けることなく現存している。

- ①左甚五郎 ②山本茂祐 ③鳴雪斎 ④丸山新太郎

正解は②です。【正解率 50.0%】 学習帳Ⅱ（指定文化財編）51 頁

大聖寺神明町の曹洞宗全昌寺に伝えられている木製の五百羅漢像。釈迦三尊像3体、十大弟子尊像10体、四天王尊像4体、五百羅漢尊像500体の計517体が、彩色豊かに保存状態も良好な形で残されています。これらの仏像は京都の仏工山本茂祐が慶應3年（1867）から明治初年にかけて製作したもので、石川県内では唯一の完存した五百羅漢像として貴重です。

46 後藤才次郎ゆかりの寺として知られる大聖寺の（ ）には、九谷焼初期の伝世品と推測される「古九谷色絵孔雀図平鉢」が所蔵されている。

- ①本善寺 ②願成寺 ③全昌寺 ④実性院

正解は①です。【正解率 63.6%】 学習帳Ⅱ（指定文化財編）47 頁

後藤才次郎ゆかりの大聖寺本善寺には、九谷焼初期の伝世品と推測される「古九谷色絵孔雀図平鉢」（口径32・7cmの大皿）があります。これは紺青が空色かかった発色をし、呉須の線描もあまり意識せず、厚く上絵付けする技法などから、初期京焼の色絵陶器や中国明末の色絵磁器に類似することが指摘されています。なお、後藤才次郎は、田村権左右衛門とともに九谷焼の創設に指導的な役割を果たした人物です。

47 山代温泉薬王院の県指定文化財「木造十一面観音像」は、もと白山五院の一つである大聖寺（ ）の本尊として祀られていたものである。

- ①全昌寺 ②慈光院 ③実性院 ④極楽寺

正解は②です。【正解率 95.5%】 学習帳Ⅱ（指定文化財編）45 頁

山代温泉の薬王院には、檜材一木造の「木造十一面観音像」があります。これは古く大聖寺慈光院（白山五院の後身）の本尊であり、慶長5年（1600）に大聖寺城主山口宗永が加賀藩主2代前田利長に攻め滅ぼされたとき、池に投げ込まれ難を逃れたと伝えられています。明治維新後、同じ白山五院の薬王院に移されました。なお、十一面観音は本地垂迹説による白山主峰の御前峰の本地仏です。

48 大聖寺の錦城山には、南北朝時代から元和元年までの間、数度に亘って城が設置されたが、この大聖寺城を大改修したのは（ ）の与力溝口秀勝である。

- ①織田信長 ②豊臣秀吉 ③柴田勝家 ④丹羽長秀

正解は④です。【正解率 86.4%】 学習帳Ⅰ（歴史編）30 頁

大聖寺西端の錦城山には、南北朝時代から元和元年（1615）まで数度に亘って大聖寺城（津葉城を含む）が設置されてきた。大聖寺城が歴史に登場するのは、南北朝時代の『太平記』が初見です。その後、一向一揆勢の土豪、織田信長の家臣、羽柴秀吉の陪臣・溝口秀勝、小早川秀秋の家老・山口宗永、加賀藩主2代前田利長の家臣（大聖

寺城代)などの武将が統治しました。大聖寺城跡は、織豊時代の城郭を知る貴重なものとなっています。

- 49 小塩辻村の十村鹿野小四郎は農業知識に詳しく、子孫に伝えるために () 全5巻を著した。
①江沼志稿 ②農事遺書 ③耕稼春秋 ④農業全書

正解は②です。【正解率 100.0%】 学習帳Ⅱ (指定文化財編) 50 頁

大聖寺藩の十村役を務めた鹿野小四郎(初代)が、農事全般の体験や知識を自身の子孫に伝えるために著したのが『農事遺書』です。小四郎は貧しい農民から、その勤勉な姿勢や優れた人間性により、若くして村肝煎、十村と抜擢され、藩から小塩辻村に居屋敷を拝領しました。『農事遺書』は全5巻からなり、江戸時代中期の農業史を研究する上で極めて価値の高い資料となっています。

- 50 () は、たびたび大聖寺藩に多額の献金を行ない、また、銀行や発電所の創設や教育活動に支援を行なうなど、加賀北前船主のリーダー的存在であった。
①酒谷長兵衛 ②西野小左衛門 ③廣海二三郎 ④久保彦兵衛

正解は④です。【正解率 72.7%】 学習帳Ⅲ (人物編) 32 頁

橋立村の北前船主、久保彦兵衛は、赤字財政に苦しむ大聖寺藩に多額の献金を行ないました。特に、6代彦兵衛は、明治以降、八十四銀行や大聖寺川水力発電株式会社の設立に尽力し、また、地元小学校に図書を寄贈したり、教育会を創設するなど、青少年の育成にも力を注ぎ、加賀北前船主のリーダーとして活躍しました。

- 51 大津事件で、ロシア帝国の皇太子ニコライを暴漢から救った2人の車夫のうち、北ヶ市市太郎は、現在の加賀市()町の出身である。
①西島 ②黒瀬 ③加茂 ④保賀

正解は③です。【正解率77.3%】 学習帳Ⅰ (歴史編) 55頁

明治24年ロシア皇太子が日本を訪れた時、警備役の巡查津田三蔵がニコライ皇太子にサーベルで切りつけました。この時、もう一人の車夫とともに津田を取り押さえたのが江沼郡加茂村出身の北ヶ市市太郎でした。そのため、市太郎にはロシア政府から褒賞と年金が与えられました。

- 52 元大聖寺藩士の梅田五月は、九谷焼や製茶・製塩などの産業振興を図り、その後、県会議員や大聖寺町長を務め、明治27年には () となった。
①商工会議所会頭 ②江沼郡長 ③石川県知事 ④衆議院議員

正解は④です。【正解率68.2%】 学習帳Ⅲ (人物編) 26頁

梅田五月は、大聖寺藩士の時代から砲術や洋学を学び、明治になると九谷陶器会社・製茶・製塩業などの郷土の殖産興業に尽力しました。その後、大聖寺町長、県会議員、衆議院議員を務めました。現在、大聖寺地区会館前には五月の石像が立っています。なお、琵琶湖に汽船を浮かべた石川嶂は五月の弟です。

- 53 河野安通志は早稲田大学を卒業後、大正11年「日本運動協会」を創設したが、これが日本初のプロ () チームといわれている。
①サッカー ②野球 ③バスケット ④ラグビー

正解は②です。【正解率100.0%】 学習帳Ⅲ（人物編）32頁

河野安通志は、大聖寺藩士河野通理の子で、明治30年一家で横浜に転居し、のち早稲田大学に入学し同大学野球部のエースとして活躍しました。大正11年「日本運動協会」（芝浦協会）を仲間数人と創設。これが日本初のプロ野球チームとなりました。昭和4年、早大野球部総監督となり、学生野球やプロ野球の発展に尽しました。

- 54 東京生まれの碓伊之助はパリに渡りアンリ・マチスに師事するなど、画家として活躍していたが、昭和37年（ ）に魅せられ、吸坂町に移住した。
- ①山中塗り ②古九谷 ③仏像彫刻 ④水彩画

正解は②です。【正解率77.3%】 学習帳Ⅲ（人物編）41頁

東京生まれの画家、碓伊之助は、パリに留学しマチシスに学び、戦後、わが国の洋画壇の復興や芸術文化の向上に大きく寄与しました。晩年、古九谷に魅せられ、加賀市吸坂町にアトリエを構え、陶芸活動を行ないました。

- 55 曾宇村出身の（ ）は日本初のアルミ印刷機やオフセット印刷機、グラビヤ輪転機など開発し、わが国の印刷技術発展に貢献した。
- ①山田宗美 ②篠原藤平 ③浜田初次郎 ④山崎定吉

正解は③です。【正解率90.9%】 学習帳Ⅲ（人物編）42頁

曾宇村出身の浜田初次郎は、当初、住み込みで鉄工所に働きながら、東京高等工業補習学校夜間部で学びました。明治33年中村鉄工所に勤務し、その後、日本で最初のアルミニウム印刷機やオフセット印刷機・グラビヤ輪転機などを作り上げ、浜田式印刷機の発明家として知られるようになりました。

- 56 大聖寺出身の洋画家（ ）は、戦後、捕虜となってシベリアに連行されたが、途中、脱走し、千キロを踏破して無事日本に帰国した。
- ①広田百豊 ②森本仁平 ③国本克己 ④宮本三郎

正解は②です。【正解率45.5%】 学習帳Ⅲ（人物編）49頁

大聖寺出身の画家森本仁平は、東京美術学校を卒業後、岩手県一関高等女学校に赴任し、昭和11年朝鮮に転任しました。その後、戦争で召集され、終戦後は捕虜となってロシアのシベリアに連行されました。しかしながら、途中で脱走し、引き揚船で無事日本に帰り、その後、自由美術協会所属の画家として活躍しました。

- 57 加賀市内でもニッチ産業とよばれる企業がある。高い技術をもって（ ）を製造している八日市町の株式会社スミタなどはその代表である。
- ①ステッキ ②自転車ブレーキ ③ヘルメット ④プリンターインク

正解は①です。【正解率45.5%】 学習帳Ⅲ（産業編）11頁

加賀市八日市町にある㈱スミタは、各種機器にとりつける無段階ロック装置やステッキ(杖)、医療器具や防災用具などの特殊商品を開発し、全国に販売しています。市内にはこのほか、ドーム型ハウスで全国展開をしている「ジャパンドームハウス㈱」（加賀市新保町）や先端技術を駆使したプラスチック成型の「㈱ネイブ」（加賀市弓波町）など、独自の技術力をもって他の企業が行わない分野で活躍している企業があります。

- 58 昭和 61 年における山代、山中、片山津の 3 温泉の宿泊者数の合計は () 万人を超えていたが、平成 25 年度には、約 160 万人まで落ち込んだ。
- ① 280 ② 370 ③ 420 ④ 480

正解は②です。【正解率54.5%】 学習帳Ⅲ（産業編）16頁

昭和61年には、山中・山代・片山津の3温泉の観光客数の合計は、約370万人数えるほどの活況を呈していましたが、その後の社会環境の変化により団体旅行の大幅な減少や旅行形態の変化などにより、平成25年度の観光客数は約160万人と、ピーク時の約半分にまで落ち込みました。

- 59 加賀市内の宇谷野工場団地は、昭和 56 年（1981）に市内宇谷町の山林およそ () 万 m²を造成し整備したものである。
- ① 12 ②27 ③46 ④52

正解は②です。【正解率40.9%】 学習帳Ⅲ（産業編）12頁

市内の工場団地では、宇谷野工場団地と小塩辻工場団地があります。宇谷野工場団地は昭和56年（1981）に市内宇谷町の山林およそ27万m²を造成し、翌57年に第1期工事が、同58年には第2期工事を終え、加賀市初の工場団地としてオープンしました。

- 60 山中漆器は、江戸末期における蒔絵師会津屋由蔵や糸目挽木の名工 ()、近代に入ってから加飾挽きの名工筑城良太郎らの努力により大きく発展したとされる。
- ①小西次兵衛 ②越前屋治平 ③近江屋庄助 ④蓑屋平兵衛

正解は④です。【正解率59.1%】 学習帳Ⅲ（産業編）14頁

天正年間（1573～93）の起源をもつ山中塗は、江戸時代には、湯治客の土産物として椀や盆・茶托などを作るようになりました。特に、江戸末期の蒔絵師会津屋由蔵や糸目挽木の名工蓑屋平兵衛、近代に入ってから加飾挽きの名工筑城良太郎らの努力により、山中漆器発展の基礎が築かれました。